

コロナ禍以降、リモートワークをはじめとする多様な働き方が急速に広がっています。それに伴い、職場でのコミュニケーションや支援のあり方にも変化が生じていると考えられます。こうした状況を踏まえ、働き方の多様化、特にリモートワーク下におけるキャリアコンサルティングの課題と展望について考えてみたいと思います。

リモートワークには、時間の自由度や身体的負担の軽減など多くの利点がありますが、一方で、孤立感や相談のしにくさなど、新たな課題も生じています。こうした悩みの背景には組織体制の問題も少なからず潜んでいると感じますが、実際には個人の問題として片付けられてしまうことも少なくありません。私の実感としても、リモート環境では問題の背景が見えにくくなる場面が多々あるように思います。だからこそ、キャリアコンサルタントには、本講義でも学んだように、広い視点から問題の背景を捉える力がより一層求められるのではないかと考えます。表面的な事象だけでなく、多角的な視点をもって問題の本質を見極めたうえで、必要な支援を行っていくことが重要だと思います。

また、リモート環境で後輩をサポートした際、「不安を和らげるにはどの手段で接触すべきか」「どのタイミングで声をかけるべきか」といった、リモートならではの問題に直面する場面がありました。表情や雰囲気を読み取りにくい分、相手の立場に立って考えることや、孤立させないための工夫がより一層求められました。このような、非対面のコミュニケーションにおける心理的な距離感のとり方や、安心して相談できる場の構築といった視点は、キャリアコンサルタントが多様な働き方をする相談者を支援するうえでも、今後ますます重要になってくるのではないかと感じます。

最近では、日常的にビデオ通話やチャットを使ったサポートを経験する機会も多くなりました。デジタルツールは意思疎通の難しさに注目されることも多いですが、一方で、個々の生活や特性に合わせた柔軟な対応を可能にし、支援の幅や可能性を広げる有効な手段とも言えます。キャリアコンサルタントには、こうした時代や社会のニーズに応じて相談者が安心して頼れる仕組みづくりをすることが今後更に求められていくものと思います。社会のあらゆる変化を見据えつつ、柔軟かつ多様な支援を提供していくことが重要だと感じます。

(969文字)